

2013 年 2 月

知床自然大学院大学構想と大学設立準備のための一般財団法人設立について

一般財団法人知床自然大学院大学設立財団

代表理事 田中 俊次

現在、貴重な自然環境や生態系、生物多様性を後世に伝えていくことの重要性が一般に認識されるようになりました。一方、変化する自然と複雑化する社会の中で自然環境の保全策や野生生物との共存策は困難性を伴う分野ともなっています。絶滅危惧種の保護や害獣・外来種対策、失われた自然の復元、里山エリアから都市近郊に至る野生動物と人間との様々な軋轢、具体的には全国的に増加しているクマの生活圏への出没、シカやイノシシによる農林業被害、外来種による生態系への影響拡大などが緊急の課題となっています。これらの問題を根本的に解決し、あるべき自然と人間社会の実現する研究と人材養成が現在求められています。

世界自然遺産に登録された知床は、世界に誇る豊かな自然が残されてきた地域であるとともに、行政、地域住民、研究者、企業・団体の関係者などが、貴重な自然環境に対する研究や保全対策、様々な問題解決に手を携えて取り組んできた実績と経験が蓄積された地域でもあります。またこれらの蓄積は、知床のみならず日本や世界各地で同様な課題を抱える地域の共通の資産としてシェアすべきであり、課題解決を担う人材育成に結び付けていかななくてはなりません。

「知床自然大学院大学（仮称）」の設立構想はこのような問題意識から発案されました。しかしながら、日本の端の小さな町が独自に大学や大学院を設立するには、財政を始めさまざまな困難があります。町による設立検討という当初の発議から、知床の地元有志を中心とするワーキンググループによる検討など 20 年以上にわたる議論を経て、資金などを集め設立準備を進めるための一般財団法人をつくり、この財団法人によって構想の実現を図ろう、という計画がワーキンググループの有志から沸き起こりました。

このたび、一般財団法人の設立登記を行い、大学院大学設立構想の実現に向けた活動を進める運びとなりましたので、ここにお知らせいたします。

一般財団法人の概要、及び大学院大学設立構想の概略等は別紙の通りです。

資金のない民間の有志が大学や大学院を設立した事例は、残念ながら日本では見当たりません。どうぞ、私どものこのような計画に対してご理解をいただき、ご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<連絡先>

一般財団法人 知床自然大学院大学設立財団

〒099-4107 北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10

(Tel)0152-26-7770 (Fax)0152-26-7773

E-mail : sizendaigaku@wine.plala.or.jp

資料1 知床自然大学院大学（仮称）の設立構想の概要について

1. 構想の起源と経緯

知床自然大学構想は、1986年（昭和61年）策定の第3次斜里町総合計画に盛り込まれた「国際自然大学の開設」が出発点です。その後、第4次総合計画、第5次総合計画に引き継がれ、町職員を中心に長年検討されてきました。

2003年3月には庁内プロジェクトによる検討報告書がまとめられましたが、それ以降、町の財政状況が悪化したこと等から検討作業は一時中断されました。一方、民間レベルの「知床自然大学ワーキンググループ」が2007年に発足し、同グループが作成した大学構想案が2008年（平成20年）に町へ示されました。町はこれらの動きを踏まえてそれまでの検討内容を総括し、あらためて町民との協働による大学構想づくりを平成22年度よりスタートすることとしました。

2. 知床自然大学構想づくり協議会の検討と準備のための一般財団法人設立

上記の経緯を受けて、各分野の有識者と町職員からなる構想検討の機関として「知床自然大学構想づくり協議会」が2010年（平成22年）7月に発足しました。9回の検討会議と3回の研修会（講演会）を開催し、知床自然大学構想案をまとめて2012年（平成24年）2月、斜里町長へ提案しました。知床自然大学ワーキンググループは、この構想案に沿って、大学院大学設立を目指した以下の設立構想の作成と実現へ向けた活動を開始し、「一般財団法人知床自然大学院大学設立財団」を設立することになりました。

3. 大学院大学設立の基本理念

知床自然大学は、生命連鎖の宇宙的秩序を厳粛に踏まえ、その完全なる調和の中に人類が存続し続けることを希求します。知床自然大学は、「自然との共生」「持続可能性」をテーマとしています。

知床は世界的にみても貴重な自然が残され、先史時代から人々がその自然を畏敬し、活用しながら生態系の一員として生活してきた場所であり、現在は先進的な自然保護管理が行われている場所です。

知床自然大学は、この知床をフィールドにした新しい構想の大学・高等教育機関であり、国際的視野に立った教育・研究・調査・保全活動を総合的に行います。

4. 設立の目的

- ①自然保護の新たな価値を創造する
- ②自然と人間の調和の実現に取り組む専門家を育成する
- ③自然の価値を守る実践活動をする
- ④地域の自立と活性化を推進する

5. 大学院大学の概要

現時点で立を目指す大学院大学の概要は下記の通りです。今後、専門員会などで具体的な大学院構想が策定されます。また、独自の設立に加え、他大学や他教育研究機関等との連携により、同内容の大学院・高等教育機関が知床に設置・誘致される可能性もあります。

- ①組織

学校法人の運営による大学院大学（2年制専門職大学院大学）とします。

②設置場所

北海道斜里町、羅臼町及び近隣市町村を予定します。また、サテライトキャンパスや実習施設を設ける可能性もあります。

③教育内容・教育体制

知床をフィールドとして実践的なトレーニングを行い、地域の自然環境や産業・生活に即した問題解決能力、対処技術を身につけるとともに、国際的に通用する専門知識や語学、コミュニケーション能力を養い、どこでも通用する「人間力」を持った人材を育成します。

「自然と人間との調和」の実現に資する人材育成のためには広範な教育内容を含む必要があります。生態学や野生生物学などの基礎に加え、保全生物学や野生生物保護管理学などの応用科学、地域に関わる社会科学分野やエコツーリズム学なども取り入れます。また英語による授業を取り入れるなど、語学の習得にも重点を置き、国境を越えた環境問題や国際協力に対応できる能力を育成します。

教官は野生生物保全学・保護管理学等の第一人者を国内外から招聘します。専任教官に加え、地元の知床財団や知床博物館職員、知床地域や環オホーツク地域をフィールドとする研究者や、世界遺産科学委員をはじめとする各分野のエキスパートの兼任・非常勤の講師招聘を行い、幅広い教育内容を展開します。教官は知床の保全に関する研究や実践活動の中心となり、保護管理の世界モデルを地域住民とともに作り上げます。学生はその活動に参画することで実践的な知識と能力、人間力を身につけます。

④学生像

自然環境や野生生物に強い関心を持ち、フィールドワークや保護管理実習を通して野生生物の保全や保護管理、生態系管理や環境保全全般に関する専門職や研究者を目指す学生及び社会人を、日本国内のみならず全世界から受け入れます。

⑤修了後の進路

進路は国や地方自治体の野生生物対策担当者や、企業・団体などの環境セクション担当者、環境教育部門や教育機関の職員、環境NGOの職員などが想定されます。また、国内に留まらず、発展途上国の環境保全担当者や教育指導者、国際NGO職員など、幅広い分野へ人材を供給します。

⑥大学院大学の施設と運営予算

目指すべき「大学院大学」は、学生・教職員あわせて120名以内の施設を想定します。必要な施設として講義棟、実習・研究棟、標本庫、図書館、学生宿舎等があります。施設費等設立資金は、大学の理念・目的に賛同し、知床の保全に援助をする企業・個人の寄付金を募りこれを活用します。施設の新設には大きな資金を必要とする事から、設立当初は行政機関や民間が所有する遊休の既存施設を改修・活用することを検討し、実績を積む中で施設整備を進めます。運営予算は教職員人件費、施設運営費などがありますが、収入は学費、補助金の他、寄付金など民間の賛助金を充てます。

6. 開学目標年

寄付の状況によりますが、4年以内を一定のめどとします。

資料2 一般財団法人 知床自然大学院大学設立財団 設立趣意書

近代以降、世界的規模で繰り広げられた発展と成長は、自然環境の破壊や汚染、地球規模の環境問題を引き起こしました。人間が自然を越える存在であるかのような文明そのものが、今問い直されています。私たちは生命連鎖の宇宙的秩序を厳粛に踏まえ、その完全なる調和の中に人類が存続し続ける道を探り、実現しなければなりません。

現在、野生生物と人間社会との間には様々な問題が生じています。絶滅危惧種の保護や生息環境の保全、外来種対策、鳥獣被害の防止など、野生生物と人間社会との軋轢を回避し、共存や適正な関係を保つための課題を解決することが求められています。そのためには、自然と人間とのあるべき関係を示す新しい思想を創造し、実現のための戦略や技術の創出、それらを担い自然環境や野生生物と人間社会との関わりを追求する研究者や専門家の育成が急務と考えられます。

2005年に世界自然遺産に登録された知床半島は、この理念に基づく研究・教育を行うために最も適している場と考えます。流氷がもたらす豊かな海・オホーツク海に囲まれ、海岸から高山帯まで原生的な自然に覆われた知床半島は、海域と陸域が一体となった複合生態系を形作っています。そこにはシマフクロウやオオワシなどの国際的な希少種が生息し、ヒグマやシャチなど食物ピラミッドの頂点に位置する生物が揃う、貴重な生物多様性が保存されてきた地域です。早くから国立公園や各種の保護地域に指定される一方、自然の保護と開発や利用をめぐる様々な問題が生じ、その解決に専門家や行政、地元住民の心血が注がれた地でもあります。また、半島基部は有数の農業地帯であり、周囲の海では持続的な漁業が営まれ、豊かな自然を求めて多くの観光客が訪れます。ここでは長年にわたり自然との共生に取り組む地域力や民力、ネットワークの力が育まれ、自然資源に加えこれらの社会的資源にも恵まれています。

「知床自然大学構想」は、1986年に策定された斜里町総合計画に盛り込まれて以降、町、民間レベルの知床自然大学ワーキンググループ、官民協働の知床自然大学構想づくり協議会と20年以上にわたって検討されてきました。

この構想を引き継ぎ、自然との共生を目指す国内・世界のニーズに応えられる研究と人材育成を行う大学院に相当する高等教育機関「知床自然大学院大学」を実現するために、一般財団法人を設立し、開設に向けた準備を行うものです。

設立者 午来 昌

設立者 上野 洋司

資料3 一般財団法人知床自然大学院大学設立財団の概要

<概要>

- 名称 : 一般財団法人知床自然大学院大学設立財団 (略称: 知床自然大学院大学設立財団)
- 主たる事務所: 北海道斜里郡斜里町青葉町28-10
- 連絡先 : 電話 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773
メールアドレス sizendaigaku@wine.plala.or.jp
- 設立年月日 : 2013年1月22日
- 設立者 : 上野洋司 午来昌
- 設立時払込金: (510万円)
- 役員 : (所属等は別紙「知床自然大学院大学設立財団スタート時体制」を参照ください)
- 代表理事 : 田中俊次
- 業務執行理事: 上野雅樹 中川元
- 理事 : 家村充尋 梶光一 金澤裕司 齋藤卓也 鈴木幸夫 吉野英治
- 監事 : 木村耕一郎 廣川昭廣
- 評議員 : 石弘之 上野洋司 午来昌 鈴木真吾 土橋利文 深山和彦
- 顧問 : 大泰司紀之氏 松浦晃一郎氏 渡辺綱男氏
- 相談役 : 丹保憲仁氏
- 設立目的 : 自然生態系の保全が人類生存の前提になっている現実を見据え、知床に、野生生物と人間社会との間に生じた様々な問題解決と共生のための新しい思想・技術を創出しその実践を担う専門家や研究者を育成する大学院に相当する高等教育研究機関(以下、「知床自然大学院大学」という)を、設立・設置・誘致することに寄与すること。
- 事業内容 : (1) 知床自然大学院大学を開設する学校法人の設立及び知床自然大学院大学の設置・誘致のために必要な資金等を集める事業
(2) 知床自然大学院大学が必要であることを広く世の中に訴える広報事業
(3) 知床自然大学院大学を開設する学校法人設立の準備、及び知床自然大学院大学の設置或いは誘致の準備をする事業
(4) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

<運営体制について>

- ・ 役員、評議員、専門委員等は原則的にボランティアとして参画し、その常勤職以外は職務に伴う報酬を得るものではありません。また、当面常勤職は設置しません。
- ・ 事務局には1名の専任職員を置き、総務担当・経理担当業務を行います。
- ・ 財団の事業は、理事及び専門委員会委員とボランティア、協力者により推進されます。

<公益認定申請と一般財団法人の機関設計運営について>

一般財団法人として活動を始めますが、2013年度中に内閣府公益等認定委員会に対して、公益認定申請を行う予定です。

定款及び機関については、「非営利性を徹底した法人」として設計しています。具体的には、剰余金の分配を行わず、役員等の同族制限を規定し、万が一解散した場合には剰余財産は国又は公益団体に贈与する規定と、それに適合した人事と運営を行います。

<賛助会員について>

本財団の理念・目的に賛同いただける個人、団体、法人を広く組織する賛助会員制度を用意します。

資料4 運営体制について

一般財団法人知床自然大学院大学設立財団のスタート時体制

設立者 設立者	上野 洋司 午来 昌	知床斜里町観光協会会長 元斜里町長
評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員	石 弘之 上野 洋司 午来 昌 鈴木 眞吾 土橋 利文 深山 和彦	環境問題研究者 知床斜里町観光協会会長 元斜里町長 知床ユネスコ協会会長 斜里町商工会会長 ウトロ漁業協同組合代表理事組合長
代表理事	田中 俊次	東京農業大学生物産業学部教授 (元斜里町知床自然大学院構想づくり協議会会長)
業務執行理事 業務執行理事	上野 雅樹 中川 元	知床ユネスコ協会事務局長 元知床博物館館長
理事 理事 理事 理事 理事 理事	家村 充尋 梶 光一 金澤 裕司 齋藤 卓也 鈴木 幸夫 吉野 英治	知床ユネスコ協会会員 東京農工大学農学部教授。日本哺乳類学会理事長 羅臼町教育委員会自然環境教育主幹 北海道環境財団専務理事 会社員、外国人支援団体理事 知床観光興業代表取締役
専門委員	別途	第1回理事会で検討
監事 監事	木村 耕一郎 廣川 昭廣	斜里町議会議長 税理士
顧問 顧問 顧問	大泰司 紀之 松浦 晃一郎 渡辺 綱男	知床世界自然遺産地域科学委員会委員長。 北海道大学名誉教授 公益財団法人日仏会館理事長。 前ユネスコ事務局長(第8代) 自然環境研究センター上級研究員。国連大学シニアプログラムコーディネーター。前環境省自然環境局長
相談役	丹保 憲仁	北海道立総合研究機構理事長。 北海道大学名誉教授(第15代総長)
事務局	竹川 智恵	